

今後の高等学校教育の基本的方向

- 概要版 -

〔全体構成〕

第1章	高校教育の目指す姿	:	総論
第2章	今後の高校教育の充実	:	各論
第3章	学びの環境整備	:	各論

平成22年3月17日

岩手県教育委員会

第1章 高校教育の目指す姿

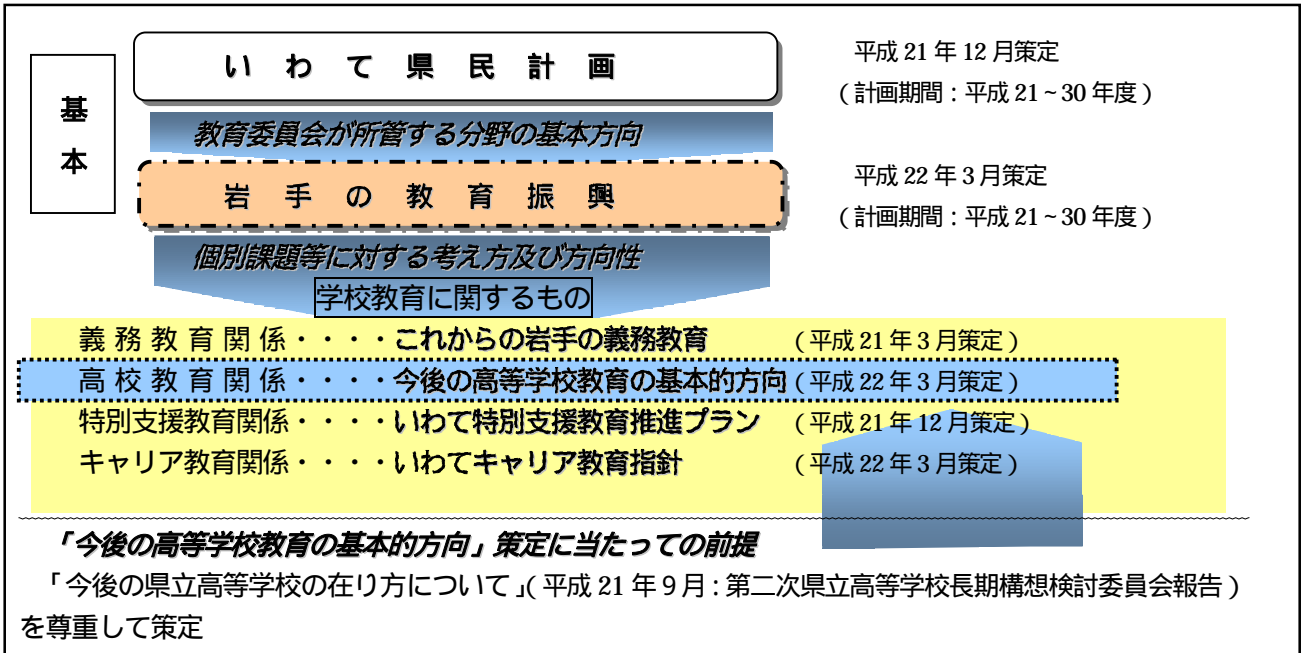
1 策定の趣旨

いわて県民計画・岩手の教育振興の方向性、第二次県立高等学校長期構想検討委員会の報告

概ね10数年先を展望し、日本や岩手の未来を担う人財の育成に向けた今後の県立高校における教育の基本的な考え方と方向性を示すもの

人財：一般的に「人材」が用いられるが、将来の岩手県や社会を担う子どもは財産であるという意味を込めて、第二次県立高等学校長期構想検討委員会の報告の中で使われた用語であり、本書でも同様に表記するもの。

〔概念図〕



2 岩手の高校教育の状況

今後求められるもの

岩手の高校教育の特長

- 教育関係者の努力の積み重ねによる優れた伝統と教育基盤
- 素直でまじめな資質を有する生徒の育成、様々な分野での活躍

受け継がれてきた高校教育をさらに充実・発展させ、生徒が社会の変化に柔軟に対応できる力の育成

少子化の進行

約83学級

- H21：13,678人 H35：約10,350人(3,300人)
- 気仙地区、久慈地区、二戸地区：H35 中学校卒業生数400人台

生徒の状況等

- 高校生の授業理解 「よく分かる」「だいたい分かる」約4割
- 体力の低下、食生活の乱れ ・進路意識を持たない生徒の増加
- 中退者、不登校：各約500人/年・特別な支援が必要な生徒が在籍

基礎的な知識や技能の確実な定着、活用する力等の育成
自立した社会人として生きていく力の育成
健康の増進と体力の向上、協調性や社会性等の育成
多様な生徒に対する適切な指導、支援体制の充実

高校卒業後の進路

- 大学等進学率 40.6%、就職率 30.8% (うち4割が県外就職)
- 高校卒業後就職者の概ね5割が3年以内に離職するという実態

生徒の進路実現に向けた対応(進学体制の充実、産業振興の方向性等を見据えた専門教育の充実など)

中学生の志望動向：公立高校定員割合

- 普通科：47.1%：58.4% 総合学科：6.0%：11.1% (志望少ない)
- 普通系専門：11.7%：2.0% 職業系専門：33.8%：28.5% (多い)

中学生の志望動向や高校生の進路実態等を見据えた望ましい学校・学科配置等の検討

3 岩手の高校教育が目指すもの

(1) 高校教育の目的と人財育成の視点

高校時代：将来の目標に向けて進路意識を明確に持ち、
社会人としての基盤を培う大切な時期

高校教育の目的

「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成 = 自立した社会人としての資質を有する人財(生徒)の育成

人財育成の視点

生活面や学習面における基礎・基本を確実に身に付けさせ、それらを活用する力、自ら探究する力、主体的に判断し、課題を解決していく能力、コミュニケーション能力など、社会の変化に柔軟に対応し、難局を打開する力の育成
本県の人づくりの土壌の中ではくまれてきた忍耐力、協調性、社会貢献へのひたむきな態度や意欲などの資質をさらに伸ばし、目標に向かって堅実に努力する姿勢や態度を身に付けさせる

(2) 高校教育の質と機会の保証

高校教育の質の保証

生徒の目標達成のため、適切な教育環境の整備や教員配置、教育課程の編成などを通じて教育の質を保証

能力に応じた高校教育を受ける機会の保証

社会のために活躍したいという生徒の意欲に応え、その能力に応じた教育を受ける機会を保証

(3) 今後の高校教育の方向性

高校教育の目的の実現に向けて、**県民、教育関係者一体となって取り組む必要があります。**

1

すべての高校生に生活面や学習面における基礎・基本を定着させ、それを活用する力などを育成する取組を推進します。

2

様々な分野のリーダーや担い手を育成する視点を重視し、生徒の進路実現に向けた取組を推進します。

3

義務教育でのキャリア教育を土台として、高校入学後早い時期から生徒の進路意識を高め、自立した社会人としての資質を有する人財を体系的に育成するよう取り組みます。

キャリア教育：児童・生徒が自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を、学校教育活動全体で計画的・組織的に育むこと。

4

県全体の生徒減少が確実に見込まれる中で、適切な教育環境の整備を進めます。

5

普通科は、高等教育機関への進学に適確に対応できる指導体制の充実に取り組むとともに、地域産業を担う人財を育成する観点から、就職者の割合が比較的高い普通高校の在り方を検討します。

6

専門学科は、専門教育の充実を図るとともに、その専門性を生かして高等教育機関へ進学できるしくみ作りに取り組みます。

7

総合学科は、生徒が、その能力・適性や関心・意欲に応じた、主体的な科目選択と学習を通じて、希望する進路が達成できるような系列や教育課程等の充実に努めます。

第2章 今後の高校教育の充実

1 義務教育から高校教育への円滑な接続

(1) 義務教育の充実と高校との連携

小中高の連携を深め、学習指導、生徒指導等についての教員間の相互理解を深める取組の実施
高校の特色や学習内容等の情報提供を進め、中学生の適性等に応じた進路指導の充実

(2) 入学者選抜制度の在り方

中学校・高校双方の視点から課題を明らかにし、より良い入試制度の実現に向けた検討

2 高校教育の充実

(1) 教育内容の充実

〔基礎・基本の定着と活用する力の育成〕

基礎的な知識や技能の確実な定着、それらを活用して課題解決に必要な思考力や判断力等の育成
生徒の基礎学力の定着状況を把握・検証し、抽出された課題に対し具体的な改善策を講じる取組の実施
すべての教科・活動を通じて、批評、論述などの言語活動や知識・技能の活用を図る学習活動の充実

〔教育課程の改善と学校間連携等の推進〕

多様な能力・適性、進路希望等に対応し、適切な教育課程編成、検証・評価による継続した改善の定着化
学習の選択幅拡大等に向けて、学校間連携や学校外の学修による単位認定の積極的な推進

〔豊かな人間性や社会性の育成〕

すべての教育活動において、地域と連携しながら、体験活動等を通じた豊かな人間性や社会性の育成
道徳教育や体験活動等を通じて、規範意識やコミュニケーション能力などをはぐくむ取組の積極的な推進

〔健やかな体の育成〕

家庭や地域と連携を深めながら食育の推進、運動意欲、体力の向上等に関する指導の充実
運動部活動による合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさ等を楽しみ、競技力の向上等

〔キャリア教育の推進〕

家庭や地域、産業界等との連携を図りながらキャリア教育を推進
発達段階に応じて体系的に取り組むこととし、すべての高校でキャリア教育の取組を推進

(2) 教員の資質・能力の向上

日常の教科指導を振り返り、生徒の状況を踏まえた授業改善を進めるなど授業力の向上の取組
校内での日常的な研修や企業への現場研修、初任者研修や授業力向上研修など教員研修の充実
学校訪問等を通じた支援の充実、優れた実践事例の普及や教材・学習プログラム開発の推進

(3) 学校経営等の充実

〔目標達成型の学校経営の推進〕

学校の教育力を向上させるため、保護者や住民の協力を得て学校経営計画を策定
P D C A サイクル に基づく仕組みを定着させることにより、学校経営計画の実効性ある取組の推進
学校の裁量権の拡大、広域的な視点での効果的な教職員配置等の検討など学校経営の取組への支援
P D C A サイクル：計画（Plan）、実行（Do）、検証（Check）、改善（Action）の過程を順に実施し、最後の改善
を次のサイクルにつなげ、継続的な経営改革や業務改善を進めるマネジメントの手法。

〔生徒の支援体制の充実〕

中途退学者や不登校生徒への指導の充実や支援体制の強化
障がい等により特別な支援を必要とする生徒への適確な指導や支援体制の充実
支援を必要とする生徒への指導の充実に向けた教員研修の充実、スクールカウンセラーや特別支援教育支援員等の配置の取組
特別な支援が必要な生徒への支援に関して、高校にリソースルーム（通級型の支援教室）の設置や生徒の適性に応じた弾力的な教育課程の編成及び単位認定等についての研究や検討

3 高校から進路先への円滑な接続

〔進学〕

生徒一人ひとりの進学希望を達成できる学力
向上の取組をさらに推進
専門学科からの高等教育機関への入学枠の拡大等に向けた取組の推進

〔就職〕

学習面における基礎・基本の確実な定着、キャリア教育や進路指導の一層の充実
各関係機関と連携を図りながら、生徒の就職に関する希望の実現に向けた取組の強化

第3章 学びの環境整備

1 「県立高等学校新整備計画」の取組

現行計画（県立高等学校新整備計画、同後期計画）

中心となる推進方策

課 題

生徒の多様化・個性化
少子化による生徒減少

対 応

特色ある学校・学科の設置
望ましい規模の学校の配置

〔現行計画の実施状況〕

計 画	年度	H12	H16	H21
	学校数	83	74	61~68
学級数	359	317	266	

実 績	年度	H12	H17	H21
	学校数	83	77	65
学級数	359	301	273	

< 第二次県立高等学校長期構想検討委員会における評価・検証 >

概ね計画どおり

〔総合評価〕

（評価）

新しいタイプの学校への再編により生徒の選択幅が広がり学習意欲が向上すること、統合により生徒の学習環境が充実することや学校が活性化するなど一定の成果が認められる。
生徒の多様化・個性化への対応、少子化による生徒減少への対応の点で、新しいタイプの学校の拡大や望ましい学校規模を確保した高校教育改革は評価できる。

（課題）

統合や新しいタイプの学校の設置をより効果のあるものとして定着させるため、今後とも課題を検証し、各高校の設置目的に沿った対応が必要である。
今後の更なる生徒減少に対応するため、高校教育の在り方を十分議論し、高校再編の検討を進めていく必要がある。

この評価や課題を踏まえながら、県立高校のより良い環境整備に取り組みます。

2 今後の環境整備の考え方

(1) 全体方針

今後の中学校卒業予定者数の減少・学校の小規模化

高校教育の充実に向けて、長期的な視点で県立高校の環境整備を進める必要

県全体を見通した学校・学科の配置に努める

ブロック毎の生徒減少の状況や実情等も考慮して、県立高校の教育環境の整備を推進

(2) 学級定員及び学校の規模

〔学級定員〕

高校標準法 の標準（公立高校の学級定員の標準）に基づき設定（現在は40人）
なお、今後、国における学級編成や教職員定数の改善に向けた動向を踏まえて適切に対応

高校標準法：公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律

《第二次県立高等学校長期構想検討委員会の報告（概要）》

高校では...

- ・ 選択科目が多く、生徒毎に選択科目が異なる
 - ・ 少人数指導や習熟度別学習の実施
- 学級と学習集団が異なる

高校生は...

- ・ 社会に出る一歩手前
- ・ 切磋琢磨できる環境が望ましい

一定規模の
人数が必要

40人より少ない学級にすると...

- ・ 総定員が減少する場合、配置教職員が減少
- きめ細かい指導への対応が難しくなる
- 教育課程編成の対応が難しくなる

増員には財政負担必要

教育指導
体制低下

生徒の社会性や協調性の育成など人財育成の観点や
高校教育における学級の機能、生徒の学習環境の確保
などを踏まえると...

現行の40人定員が現実的

〔学校規模〕

県立高校全体の望ましい学校規模は、1学年4～6学級程度とし、3学級以下の学校など各高校の規模については、地域の実情等を踏まえ、意見を伺いながら対応を検討

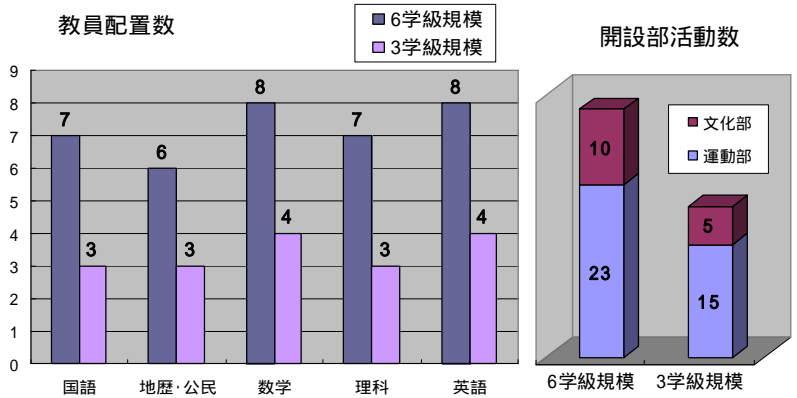
なお、検討に当たり、教員の相互派遣や校舎制等の可能性を検討、ブロック毎のバランス等にも配慮した学校の配置

《第二次県立高等学校長期構想検討委員会の報告(概要)》

県立高校のうち、1学年4学級以上の学校では、科目ごとに専門教員の配置が可能となり、生徒の能力や個性を最大限に伸ばすための教育課程の編成が可能となる。部活動も生徒の希望に十分応えることができる。

生徒数の減少を踏まえると、将来にわたり7学級以上の学校設置は困難。

望ましい学校規模 1学年4～6学級



(3) 教育機会の保証

〔地区割と学校配置〕

県立高校の配置に関する地区割の基本単位は、当面、現在の9ブロック
各ブロック内で中学生が希望に応じて普通科、専門学科等を選択できるように学校を配置
今後、より広域的な地域単位での配置も視野に、通学区域及び地区割を必要に応じて検討

〔通学に対する支援〕

統合で通学が困難となる場合には、地元市町村と連携し、通学手段の確保に向けた検討
通学費負担の増加など経済的理由により、高校教育を受ける機会が制限されることのないよう経済面での支援を検討
公立高校無償化など国の施策の影響等を見据え、生徒・保護者により良い支援策を検討

(4) 地域や産業界との連携

- 地域の人財育成 -

地域産業やその振興方向を念頭に置きながら、学科の配置を検討
産学官が一体となった広域的な人財育成の取組や関連企業等との連携を深めながら、進路先確保に向けた取組の推進

- 地域と連携した教育活動 -

生徒の社会性や豊かな心をはぐくむため、地域との連携による教育活動の実施
生徒の地域活動への参加を支援するなどさらに地域に貢献できる取組の推進

(5) 県立高校と私立高校の関係

私立高校は、今後も、県立高校、他の公立高校とともに、その特色や魅力等を高めながら、高校教育の充実に大きな役割を果たしていくことを期待



3 学校(学科)の配置

(1) 県全体の配置

県の産業振興施策の方向性や産業界のニーズ、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況、生徒・保護者の意識変化の状況等を踏まえ、全県的な視野に立ち検討

(2) ブロック毎の配置

県全体の考え方を基本としながら、各ブロックの産業構造や地域特性にも留意しながら検討
ブロックによっては、生徒減少に伴い配置できる学校数や校種が限定される可能性があることから、教員の交流による学校間連携の仕組みづくりや生徒にとってより良い教育環境の整備

(3) 高校(学科)の方向性

普通高校(普通科及び普通科系の専門学科)

進学に対応できる学校としていくとともに、就職を希望する生徒も存在する普通高校は、地域の実情に応じて多様な指導体制が取れる学校へ

生徒の思考力や課題解決能力等の育成、キャリア教育の充実など将来の社会人としての基本的な資質等の育成
生徒の進学希望の実現に向け、各ブロックを単位として、一定の学校規模を確保しながら適切に配置
普通科系専門学科の学科や学系の構成、内容などについて検討し、適切に配置

専門高校(職業教育を主とする専門学科)

社会人としての基礎・基本の確実な定着を図る指導の強化(生活・学習指導の充実や教育課程の工夫)

地域産業を支える将来のスペシャリスト育成に向けた取組

(本県産業を支える将来のスペシャリストを育成する観点から高校・学科の充実、核となる専門高校に中心校としての機能の充実を図るため一定の学校規模の確保、小規模な専門高校は総合的な専門高校としての整備を検討、地域等を理解させる教育の充実、地域産業界との連携強化)

高等教育機関への接続(大学等との連携をさらに深め、高等教育機関への進学を定着させる仕組みづくり)

各学校の目指す教育の特色、進路の状況、県の産業振興施策の方向性を見据えた各学科の充実

福祉に関する教育は、国の施策の動向や養成機関の状況などを見極めながら検討

< 個別の専門学科(職業教育を主とする)の方向性 >

農業科...地域の農業形態やニーズ等を踏まえた教育課程の見直し、進路等を見据えた学科改編等

工業科...地域の産業構造やニーズ等を踏まえた教育課程の見直し、基幹学科を中心とする学科改編等

商業科...地域の産業構造やニーズ等を踏まえた教育課程の見直し、大学科制やくくり募集などの学科改編等

水産科...水産・海洋産業の動向やニーズ等を踏まえた教育課程の見直し、進路等を見据えた学科改編等

家庭科...地域の産業構造やニーズ等を踏まえた教育課程の見直し、進路等を見据えた学科改編等

総合的な専門高校...地域の産業構造やニーズ等を踏まえた教育課程の見直し、進路を見据えた学科構成

総合学科高校

ガイダンス機能の一層の充実、各系列における進路と関連性を重視した科目設定を行い、進路実現に向けた取組

総合学科の特長を活かしながら、教育活動の充実、必要に応じて系列の見直しを検討

定時制・通信制高校

定時制は、弾力的な単位取得等が可能となる単位制への転換、全県的なバランスを考慮した多部制への転換

通信制は、本校、分校、分室の連携を図り、多様な生徒の学び意欲に応える体制を確保

中高一貫教育校

連携型は、導入時の目的やその後の状況の変化等を確認し、地域の意向も踏まえて今後の方向性を検討

併設型は、1校目の導入の成果と課題を検証し、今後の方向性を検討

4 実施計画の策定

概ね10年後を見据えた「第二次県立高等学校整備計画」の策定

(前期5年間の具体的計画と後期5年間の大きな見通し、後期の具体的な内容は今後改めて検討)

22年度に、ブロック毎に地域住民との意見交換の場を設け、十分に意見を伺いながら検討